※令和５年度の科目概要です。

授業科目名	株式会社会計
授業科目名（英字）	Corporate Accounting
時間割	前期 火曜日 １校時 第22講義室 ←令和５年度の時間割です。 令和６年度の時間割は、木曜日１校時です。
対象年次及び学年	３年次
担当教員	朴 恩芝
ナンバリングコード・水準	B3
ナンバリングコード・分野	BSN
ナンバリングコード・ディプロマ・ ポリシー(DP)	bcd
ナンバリングコード・提供部局	E
ナンバリングコード・対象学生	3
ナンバリングコード・特定プログラムとの対応	O
ナンバリングコード・授業形態	Lg
ナンバリングコード・単位数	2

関連授業科目	会計関連科目
履修推奨科目	簿記入門、会計学総論、財務会計、監査論
学習時間	講義90分 × 15回 ＋ 自学自習（準備学習30時間＋事後学習30時間）
授業の概要	この授業では企業活動の「開示」と「分析」の側面に焦点を当てて説明します。 その一つは、企業の一般的な経済活動をまとめた財務諸表の分析です。企業の経済状況を把握するために、利害関係者、とりわけ資金提供者である投資家 は、投資家の視点での企業の経済活動を分析します。 もう一つは、気候関連財務情報開示（TCFD）について学習します。2022年4月から東京証券取引所のプライム市場上場企業には、その開示が事実上義 知識では対応しきれない新しい概念です。投資家が企業を評価する際にも重要なポイントとなると考えられています。義務化という言葉通り企業の対応は必ず 授業では、企業の経済活動をどのように見ていくかを、従来の財務分析と新しい概念としてのTCFDについて、知識と実践の側面で取り組みます。
授業の目的	現代企業を理解するには、企業を取り巻く環境の変化に、投資家や関連利害関係者たちも対応する必要があります。授業の狙いは次の２つです。 まず、企業の財務諸表から多様な視点をもって分析することです。従来のとおり、企業の財務情報をどのように分析するかは最も基本です。例えば、（1）利益 分析」を通して、企業の状況を把握することができ、企業の全体とそれを構成する個別状況を把握することができます。 次は、拡大している企業活動をいち早く認知し対応することです。いまの企業活動は単純な経済活動に限りません。TCFD開示からわかるように気候変動問題 て投資家らに伝える必要があります。投資家らにもその情報が信頼できるものなのか見極めることが求められます。 この授業をとおして、受講者は企業がどのように情報を作成するか、利用者は開示された情報のどこを見てどう評価すればよいかを学習することができます。
到達目標	授業では次のような目標を設定してみました。目標達成に向けてともに頑張りましょう。 1．会計情報のもつ意味を理解することができます。（知識・理解） 2．企業活動が財務諸表にどのように表れ、分析をとおしてどう読み取れるのかその方法を身に着けることができます。（問題解決・課題探求能力） 3．企業の財務活動にTCFDという新しい概念が用いられており、企業の対応が求められる理由が確認できます。（倫理観・社会的責任）
成績評価の方法	グループワーク（中間テスト）（特に、到達目標2）、小テス（特に、到達目標1）ト、期末評価による総合的評価（特に、到達目標2、3）。（評価の相 受講のマナーを守ってください。守らない場合は単位を認めません。
成績評価の基準	成績の評価は、100点をもって満点とし、秀、優、良及び可を合格とする。各評価基準は次のとおりとする。 秀（90点以上100点まで）到達目標を極めて高い水準で達成している。 優（80点以上90点未満）到達目標を高い水準で達成している。 良（70点以上80点未満）到達目標を標準的な水準で達成している。 可（60点以上70点未満）到達目標を最低限の水準で達成している。 不可（60点未満）到達目標を達成していない。 ただし、必要と認める場合は、合格、了及び不合格の評語を用いることができる。その場合の評価基準は次のとおりとする。 合格又は了 到達目標を達成している。 不合格　到達目標を達成していない。
	授業前半は企業の財務諸表の分析に重点を置きます。 理論についての講義とともに、実際の企業のデータや練習問題をとおして、分析能力を身につけさせます。 後半はTCFDに関連する理論中心の内容です。 なお、授業の進捗状況によって、授業内容が変更することがあります。

授業計画並びに授業及び学習の方法	１．会計学の基礎I（復習）－財務諸表の役割と企業活動との関連について ２．会計学の基礎II（復習）－連結財務諸表の構造全般について ３．グループワーク　貸借対照表分析－安全性　－企業の健全な財務状態について把握する ４．グループワーク　損益計算書分析－収益性　－企業の儲けについて把握する ５．グループワーク　相互関係比分析－収益性 －企業の安全性と収益性を時系列かつクロスセクション分析をとおして産業全般 の動向を把握する。 ６．グループワーク　効率性分析　－企業業績の良否を把握する ７．グループワーク　キャッシュ・フロー計算書分析　－企業の経営手腕を把握する ８．　グループワーク　損益分岐点分析　－企業の採算を把握する ９．グループワーク 成長性分析　－企業の将来性を予測する 10. グループワーク　付加価値分析　－経営資源である労働力や設備投資に対する付加価値を把握する 11. グループワーク　総分析 12. TCFDの定義と背景 13. TCFDを取り巻く環境の変化と国際的動向 14. TCFDの仕組み 15. TCFDの実践 注意：対面授業の実施を基本としますが、状況によって柔軟に対応します。 【自学自習のためのアドバイス】 第１回ー第２回　会計の基礎に関するおさらいなので、以前学習した簿記や会計学総論の内容を事前学習で十分確認しておいてください。 第３回ー第１１回　企業の財務諸表の分析をグループワークとして行うためには、各自の役割分担と事前学習準備が欠かせません。丁寧に分析に取り組ん 第１２回ー第１５回　現在企業にとってもっとも注目される気候関連財務情報開示に関するものです。今後社会人になってからも使えるものなので、しっかり
教科書・参考書等	参考書　乙政正太『財務諸表分析（最新版）』同文館出版 購入の必要はありません。 必要に応じて、資料を配付します。
オフィスアワー	木曜日3講目（13：00－14：30）　南キャンパス3号館3階（朴恩研究室）
履修上の注意・担当教員からのメッセージ	簿記や会計の基礎知識があると、より授業内容が分かりやすくなります。事前に必要な基礎内容を学習してからの受講が望ましいです。授業では、グループワ （授業と試験時）。携帯電話の計算機は使えません。 なお、第1回授業には必ず出席してください。注意事項や講義計画、試験などに関する説明を行います。
参照ホームページ	
メールアドレス	park.ej@kagawa-u.ac.jp
教員の実務経験との関連	